

1. 評価結果概要表

作成日 平成19年12月10日

【評価実施概要】

事業所番号	3670100027
法人名	社会福祉法人 光風会
事業所名	グループホーム やまもも
所在地	徳島県徳島市下町本町 59-26 (電話)088-644-1115
評価機関名	社会福祉法人 徳島県社会福祉協議会
所在地	徳島県徳島市中昭和町1丁目2番地
訪問調査日	平成19年 12月 7日

【情報提供票より】(平成19年11月15日事業所記入)

(1) 組織概要

開設年月日	平成10年 9月 1日		
ユニット数	1 ユニット	利用定員数計	9 人
職員数	7 人	常勤7人, 非常勤0人, 常勤換算	7人

(2) 建物概要

建物構造	木 造り
	2階建ての 1階部分

(3) 利用料金等(介護保険自己負担分を除く)

家賃(平均月額)	25,000 円	その他の経費(月額)	光熱費7,000円・その他実費
敷金	有(円)	無	
保証金の有無 (入居一時金含む)	有(円)	有りの場合 償却の有無	有/無
食材料費	朝食	円	昼食 円
	夕食	円	おやつ 円
	または1日当たり		1,000円

(4) 利用者の概要(11月15日現在)

利用者人数	9名	男性	0名	女性	9名
要介護1	2名	要介護2	4名		
要介護3	1名	要介護4	1名		
要介護5	0名	要支援2	1名		
年齢	平均 81歳	最低	70歳	最高	91歳

(5) 協力医療機関

協力医療機関名	徳島さくらクリニック
---------	------------

【外部評価で確認されたこの事業所の特徴】

ホームの門を入ると、庭先の樹に季節柄、利用者と職員が家にある物を持ち寄り、一緒に飾られたクリスマスツリーがあった。また庭園には色とりどりの花が植えられている。ホームの職員は利用者一人ひとりの歩んでこられた時代背景や、人生を深く理解しようと努力し、ホームでの生活が充実するようなサービスを心がけている。協力医療機関とは棟続きのため安心した日常生活が送れている。地域の複数のグループホームと交流を持っており情報交換や研修等することにより、ケアサービスの質の向上に繋げている。

【重点項目への取り組み状況】

重点項目①	<p>前回評価での主な改善課題とその後の取り組み、改善状況(関連項目:外部4)</p> <p>前回評価の改善課題は「利用者が服薬する薬の説明書を受け、薬剤への理解を深めることが望まれる。」「事故報告書へ再発防止対策を記載することが望まれる」の2点である。服薬については、看護師からの情報やインターネットで調べたりして知識を共有している。事故の再発防止等については、対策を検討し、具体的に記録する様式が作られており、記載し、ファイルされている。</p>
	<p>今回の自己評価に対する取り組み状況(関連項目:外部4)</p> <p>今回の自己評価に対する取り組みについて、代表者をはじめとして職員が一体となり、評価の意義を理解し、検討され作成されている。</p>
重点項目②	<p>運営推進会議の主な討議内容およびそれを活かした取り組み(関連事項:外部4, 5, 6)</p> <p>運営推進会議は地域包括支援センター職員、民生委員、婦人会役員、利用者、家族代表、職員で構成し、2ヶ月に1回開催されている。会議は現在の活動報告や今後の予定について説明し、質疑応答等を行っている。会議では近隣の4つのグループホームの管理者が集まり、第三者評価への取り組み、より安全なケアについての情報を交換し、サービスの質の向上に向けての討議等を行っていることの報告がされている。</p>
	<p>家族の意見、苦情、不安への対応方法・運営への反映(関連項目:外部7, 8)</p> <p>意見、苦情等はないが、玄関には意見箱が置かれ、家族会、運営推進会議、家族の来所時等に話し合いをして、一人ひとりの利用者、家族に細やかな対応を心掛けている。</p>
重点項目③	<p>日常生活における地域との連携(関連項目:外部3)</p> <p>町内会、老人会へは法人が代表して入会し、地域の行事等の情報を得て、町内の清掃、その他の地域活動に参加し地域の方々と交流をしている。秋祭りの時季には、御輿が法人の各施設を賑やかに回ってくれ、利用者は祭りの気分を味わい喜んでいる。</p>
重点項目④	

2. 評価結果（詳細）

（ 部分は重点項目です ）

取り組みを期待したい項目

外部	自己	項目	取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	(○印)	取り組みを期待したい内容 (すでに取り組んでいることも含む)
I. 理念に基づく運営					
1. 理念と共有					
1	1	○地域密着型サービスとしての理念 地域の中でその人らしく暮らし続けることを支えていくサービスとして、事業所独自の理念をつくりあげている。	地域の方々とのふれあいを大切にし、その人らしく安心して馴染みの生活ができるよう、また、その家族との関係をも大切にしていくことを理念としている。		
2	2	○理念の共有と日々の取り組み 管理者と職員は、理念を共有し、理念の実践に向けて日々取り組んでいる	管理者と職員は毎日の申し送り、ミーティングの中で話し合い利用者によりじっくり寄り添い、理念の実践に取り組んでいる。		
2. 地域との支えあい					
3	5	○地域とのつきあい 事業所は孤立することなく地域の一員として、自治会、老人会、行事等、地域活動に参加し、地元の人々と交流することに努めている	町内会、老人会へは法人として参加しており、その会の情報から町内の清掃等に職員がその一員として参加している。また、地域のお祭りには御輿が回ってきてくれたり、保育所の子供の来訪があり交流している。		
3. 理念を実践するための制度の理解と活用					
4	7	○評価の意義の理解と活用 運営者、管理者、職員は、自己評価及び外部評価を実施する意義を理解し、評価を活かして具体的な改善に取り組んでいる	運営者、管理者、職員共に評価を実施する意義を十分理解しており、全員で考え、結果について検討し、具体的な改善に取り組んでいる。		
5	8	○運営推進会議を活かした取り組み 運営推進会議では、利用者やサービスの実際、評価への取り組み状況等について報告や話し合いを行い、そこでの意見をサービス向上に活かしている	運営推進会議は地域包括支援センター職員、利用者、家族、民生委員や婦人会役員、管理者および職員等で組織し、2ヶ月に1回開催している。現在の活動報告や今後の予定、評価事項について説明をし、質疑応答を行い、そこでの意見をサービス向上に活かしている。		

外部	自己	項目	取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	(○印)	取り組みを期待したい内容 (すでに取り組んでいることも含む)
6	9	○市町村との連携 事業所は、市町村担当者と運営推進会議以外にも行き来する機会をつくり、市町村とともにサービスの質の向上に取り組んでいる	管理者は異動後間もないため、市町村の窓口担当者への行き来はなく、法人担当者より書類の提出をする程度で、関係作りはまだ十分とは言えない。	○	新任の挨拶・行事予定表を持参する等、市町村窓口担当者との関係作りに取り組んでいかれたい。
4. 理念を実践するための体制					
7	14	○家族等への報告 事業所での利用者の暮らしぶりや健康状態、金銭管理、職員の異動等について、家族等に定期的及び個々にあわせた報告をしている	利用者の暮らしぶりや健康状態、定期検診等の結果は、家族の面会時に報告している。また利用者の状態に変化がある場合など、必要に応じて電話等にて報告している。金銭管理については訪問時に出納帳をみてもらい、確認サインをもらっている。		
8	15	○運営に関する家族等意見の反映 家族等が意見、不満、苦情を管理者や職員ならびに外部者へ表せる機会を設け、それらを運営に反映させている	家族の面会時、家族会、運営推進会議等の中で出た意見については、真摯に受け止め、解決に向けて検討している。運営推進会議で結果報告している。		
9	18	○職員の異動等による影響への配慮 運営者は、利用者が馴染みの管理者や職員による支援を受けられるように、異動や離職を必要最小限に抑える努力をし、代わる場合は、利用者へのダメージを防ぐ配慮をしている	職員は利用者、家族との信頼関係を築くためにも、馴染みの職員が対応することが望ましいと考えている。異動がある場合には、引き継ぎ等で混乱を少なくし、利用者へのダメージを防ぐ配慮をしている。		
5. 人材の育成と支援					
10	19	○職員を育てる取り組み 運営者は、管理者や職員を段階に応じて育成するための計画をたて、法人内外の研修を受ける機会の確保や、働きながらトレーニングしていくことを進めている	職員は法人内で開催されている週1回の研修会、月1回の勉強会に参加し、徳島県グループホーム協会主催、その他の研修会には十分参加の機会が確保されている。参加者は報告書を提出しており、参加できなかった職員にも内容や情報が共有できる仕組みがある。		
11	20	○同業者との交流を通じた向上 運営者は、管理者や職員が地域の同業者と交流する機会を持ち、ネットワークづくりや勉強会、相互訪問等の活動を通じて、サービスの質を向上させていく取り組みをしている	運営者は徳島県グループホーム協会に参加し種々の情報を収集している。また地域の4つのグループホームと交流する機会を持ち、活動を通してサービスの質の向上を図っている。これらは運営推進会議にも報告している。		

外部	自己	項目	取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	(○印)	取り組みを期待したい内容 (すでに取り組んでいることも含む)
Ⅱ.安心と信頼に向けた関係づくりと支援					
1. 相談から利用に至るまでの関係づくりとその対応					
12	26	○馴染みながらのサービス利用 本人が安心し、納得した上でサービスを利用するために、サービスをいきなり開始するのではなく、職員や他の利用者、場の雰囲気徐々に馴染めるよう家族等と相談しながら工夫している	入居時には、必ず事前に本人や家族にグループホームを見学してもらっている。また入居後は職員やその他の利用者になじめるように言葉がけなどでコミュニケーションを図り、家族とは連絡を取り合うなど工夫している。		
2. 新たな関係づくりとこれまでの関係継続への支援					
13	27	○本人と共に過ごし支えあう関係 職員は、本人を介護される一方の立場におかず、一緒に過ごしながらか喜ぶ哀楽を共にし、本人から学んだり、支えあう関係を築いている	職員はグループホームの意義を理解し、調理時、煮物の味付けや、漬け物づくり等を一緒に行いながら教えてもらう場面づくりをしている。		
Ⅲ. その人らしい暮らしを続けるためのケアマネジメント					
1. 一人ひとりの把握					
14	33	○思いや意向の把握 一人ひとりの思いや暮らし方の希望、意向の把握に努めている。困難な場合は、本人本位に検討している	日々の関わりの中で会話を大切に、会話を通して一人ひとりの思いや暮らし方の希望、意向の把握に努めている。意思疎通が困難な方には、本人の反応や態度から理解し、また家族に尋ねるなどし、本人本意に検討している。		
2. 本人がより良く暮らし続けるための介護計画の作成と見直し					
15	36	○チームでつくる利用者本位の介護計画 本人がより良く暮らすための課題とケアのあり方について、本人、家族、必要な関係者と話し合い、それぞれの意見やアイデアを反映した介護計画を作成している	利用者が自分らしく暮らせるよう、本人や家族の要望と、担当職員の気づきを加え、職員全員で、課題となることを話し合い、それぞれの意見やアイデアを反映した介護計画を作成している。		
16	37	○現状に即した介護計画の見直し 介護計画の期間に応じて見直しを行うとともに、見直し以前に対応できない変化が生じた場合は、本人、家族、必要な関係者と話し合い、現状に即した新たな計画を作成している	介護計画の実施状況等を評価し、介護計画の期間に応じて見直しを行っている。また、利用者の状態に変化が生じた場合等には必要な関係者と話し合い現状に即した見直しを行っている。		

外部	自己	項目	取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	(○印)	取り組みを期待したい内容 (すでに取り組んでいることも含む)
3. 多機能性を活かした柔軟な支援					
17	39	○事業所の多機能性を活かした支援 本人や家族の状況、その時々要望に応じて、事業所の多機能性を活かした柔軟な支援をしている	協力医療機関とは廊下で繋がっているため、利用者の体調の変化時にはすぐ対応できている。また、利用者の希望等により買い物や外出等、柔軟に支援している。		
4. 本人がより良く暮らし続けるための地域資源との協働					
18	43	○かかりつけ医の受診支援 本人及び家族等の希望を大切に、納得が得られたかかりつけ医と事業所の関係を築きながら、適切な医療を受けられるように支援している	利用者、家族が希望するかかりつけ医とは適切な関係を築きながら医療を受けられるよう支援している。また、協力医療機関では定期的に検診を行っている。		
19	47	○重度化や終末期に向けた方針の共有 重度化した場合や終末期のあり方について、できるだけ早い段階から本人や家族等ならびにかかりつけ医等と繰り返し話し合い、全員で方針を共有している	利用者や家族が安心して過ごせるよう利用者の状態や受診時の状況について話し合い、情報として共有しており、適切に対応している。また、終末期には希望する病院や法人内の施設を紹介しており、方針の共有をしている。		
IV. その人らしい暮らしを続けるための日々の支援					
(1)一人ひとりの尊重					
20	50	○プライバシーの確保の徹底 一人ひとりの誇りやプライバシーを損ねるような言葉かけや対応、記録等の個人情報の取り扱いをしていない	一人ひとり、利用者の気持ちに合わせたさりげない言葉かけや対応に心掛けている。また記録等の個人情報の取り扱いにも注意を払い、部外者の目に触れないよう保管されている。		
21	52	○日々のその人らしい暮らし 職員側の決まりや都合を優先するのではなく、一人ひとりのペースを大切に、その日をどのように過ごしたいか、希望にそって支援している	一人ひとりの体調やペースに配慮しながら、その時の気持ちや要望を尊重し個別性のある生活ができるよう支援している。		

外部	自己	項目	取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	(○印)	取り組みを期待したい内容 (すでに取り組んでいることも含む)
(2) その人らしい暮らしを続けるための基本的な生活の支援					
22	54	○食事を楽しむことのできる支援 食事が楽しみなものになるよう、一人ひとりの好みや力を活かしながら、利用者と職員と一緒に準備や食事、片付けをしている	献立作りは利用者の食べたいものを取り入れている。グループホームでの調理は一週間の内、月・水・金曜の昼食のみとなっているが、利用者と職員と一緒に準備や盛り付け、片付けを行い、同じテーブルを囲み楽しく食事をしている。ミカンの皮を器代わりにするなど盛りつけにも工夫している。		
23	57	○入浴を楽しむことができる支援 曜日や時間帯を職員の都合で決めてしまわずに、一人ひとりの希望やタイミングに合わせて、入浴を楽しめるように支援している	利用者の希望により入浴できる。入浴を拒まれる時は時間を変えたり、介助する職員を変えたりして対応している。		
(3) その人らしい暮らしを続けるための社会的な生活の支援					
24	59	○役割、楽しみごと、気晴らしの支援 張り合いや喜びのある日々を過ごせるように、一人ひとりの生活歴や力を活かした役割、楽しみごと、気晴らしの支援をしている	利用者一人ひとりの生活歴等から得意分野を把握し出来ることを依頼している。最後には必ず感謝の言葉を伝えるよう配慮し、利用者が生きがいを感じられるよう対応している。		
25	61	○日常的な外出支援 事業所の中だけで過ごさずに、一人ひとりのその日の希望にそって、戸外に出かけられるよう支援している	一人ひとりの希望に添って、外出や買い物に行っている。買い物等はできるだけ混乱を避けるため、少人数で出かけ細かい支援をしている。		
(4) 安心と安全を支える支援					
26	66	○鍵をかけないケアの実践 運営者及び全ての職員が、居室や日中玄関に鍵をかけることの弊害を理解しており、鍵をかけないケアに取り組んでいる	居室、ホームの入り口は施錠せず自由に庭に下りたり出かけたりできる環境である。目立たないよう出入りにセンサーが取り付けられてあり、利用者には必ず職員が同行し、配慮している。		
27	71	○災害対策 火災や地震、水害等の災害時に、昼夜を問わず利用者が避難できる方法を身につけ、日ごろより地域の人々の協力を得られるよう働きかけている	マニュアルを作成し、月に1回避難訓練をしている。地域の消防署の協力を得て、避難経路の確認や消火器の使い方等を定期的に行っている。年2回の非常時呼集訓練、月1回の災害対策会議も開かれている。		

外部	自己	項目	取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	(○印)	取り組みを期待したい内容 (すでに取り組んでいることも含む)
(5)その人らしい暮らしを続けるための健康面の支援					
28	77	○栄養摂取や水分確保の支援 食べる量や栄養バランス、水分量が一日を通じて確保できるよう、一人ひとりの状態や力、習慣に応じた支援をしている	一人ひとりの食事摂取量や水分摂取量をチェックし、摂取量に基づいて同法人施設の管理栄養士に栄養のバランスや、水分量が適切であるかを指導してもらっている。		
2. その人らしい暮らしを支える生活環境づくり					
(1)居心地のよい環境づくり					
29	81	○居心地のよい共用空間づくり 共用の空間(玄関、廊下、居間、台所、食堂、浴室、トイレ等)は、利用者にとって不快な音や光がないように配慮し、生活感や季節感を採り入れて、居心地よく過ごせるような工夫をしている	利用者が生活感や季節感を感じられるよう、採光、換気、置物等に配慮し、生け花、鉢植えが置かれている。リビングではテレビが見やすい位置に、机と椅子等を配置し、居心地よく過ごせるよう工夫している。		
30	83	○居心地よく過ごせる居室の配慮 居室あるいは泊まりの部屋は、本人や家族と相談しながら、使い慣れたものや好みものを活かして、本人が居心地よく過ごせるような工夫をしている	利用者が使い慣れた家具や馴染みの物、家族の写真や日常品が持ち込まれ、居心地よく過ごせるよう配置されている。衣類の持ちこみは少なくし、季節毎に家族と一緒に入れ替えする時間が持てるよう配慮している。		